令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　思永　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

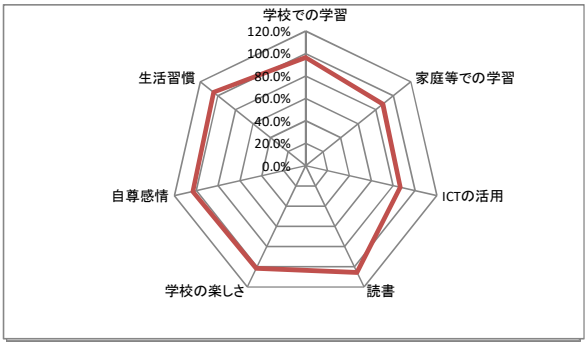
⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均を下回っているが、前回、前々回と比較して全国平均との差は縮まっている。また、短答式や記述式の問いに苦手意識があり、無解答となる生徒がいる一方で、何らかの解答をしようと試みている生徒の正答率は、全国平均と比べて比較的良い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	スピーチ（話すこと・聞くこと）に関する問いの正答率は、全て全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	短答式や記述式の問いに苦手意識があり、無解答となる生徒が一定数いる。また、文章としてまとめる問いについても無解答率が全国平均を上回っている。	

数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っている。特に1問目の素因数分解の正答率が高かった。また、資料から読み取れる情報をいくつかの条件に沿って文章としてまとめる問いについては、正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	素因数分解と構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察する問題については正答率が高い。	
	努力が必要な問題	関数が全国平均を下回っており、一次関数の意味を理解できているかどうか細かく丁寧に指導する必要がある。	

理科	全体的な傾向や特徴など	短答式、記述式の問題に対する無解答率が高い。また、実験結果が予想と異なる時の条件不備の可能性を指摘する問題等の無解答が多い。自分の考えを文章で表現することで、科学的思考力を身に付けていく必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	静電気を帯びる現象や、タッチパネルに水が関係しているかを調べる操作に関する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	化学反応式をモデルで表す問題、岩石に関する知識・技能を活用して、化石の観察の可否を選択する問題、スケッチから地層の傾きを判断する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

授業では、自分の考えをまとめる活動や自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する活動の割合が高かった。今後も、話し合い活動などを充実させていくことで、さらに発展させていくことが重要である。

土日の学習時間が2時間以上の割合は全体的に低く、ICTの活用についても割合が低い結果であった。家庭学習の充実やICTの積極的な活用について、今以上に効果的な方法を模索する必要がある。

人の役に立ちたいと思う生徒の割合と、先生はあなたのよい所を認めてくれているについて割合が高かった。生徒と教師の信頼関係が良好であることを示している。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

朝自習などで基礎・基本的な学習内容を反復して行うとともに、週末課題等にも取り組む。
短答式、記述式の問題に対応するため、話し合い活動の充実や言葉でまとめる活動に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

朝食を毎日食べているや毎日同じくらいの時間に寝ている生徒の割合は総じて高いが、SNSや動画の視聴等については、2時間以上使用している生徒の割合が高いため、規則正しい生活習慣を確立していくための手だてを構築し、啓発活動を積極的に行っていく必要がある。